



ひろみ

学校教育目標 「心豊かでたくましい子」
～仲良く助け合う子 自ら考えを深める子 体をきたえる子～

可児市立広見小学校
学校だより No. 10
令和4年12月26日

可児市広見 71-1
Tel : 0574-62-1551

E-mail:
hiromi@school.city.kani.gifu.jp



笑顔の" motto

「よさ見つけ」を習慣づけることが、自分と仲間の笑顔につながる

校長 伊佐治 才二

広見小学校では、11月29日(火)にひびきあい集会を行いました。この集会は、全校の児童がより仲良くなり、笑顔で楽しい学校生活を送れるようになることを目的とし、1年を通じて月ごとにテーマを決め、学級の仲間、学年の仲間、分団の仲間、運動会で同じ団になった仲間のよさを伝え合っています。この集会は、お互いによさを見つめ合う活動の意味を確かめたり、中間まとめをしったりするための会でした。

当日は、パソコン室を配信元会場として各教室にリモートで放映する形で行いました。集会の中では、人権委員会の児童から、人権の意味についての説明、代表の異学年ペアでのよさの紹介、人権尊重に関わる本の紹介(低学年「せなかをとんとん」中学年「教室はまちがうところだ」高学年「なんだろう なんだろう」)が行われました。その後は、各学級でよさ見つけカードの交換や感想の交流などを行い、低学年では言われてうれしい「ぼかぼか言葉」を出し合ったり、高学年では人権にかかわる「標語」や「合言葉」を考えたりしました。内容にも伝え方にも、人を思いやる気持ちと温かさを感じるもので、どの教室もいっぱいの笑顔があふれた時間でした。こうした活動を通して、他者のよさを見つける目を養うとともに、自分のよさに自信をもてる子が増えてきています。



ひびきあい集会 全校に向けて配信



よさ見つけの交換

脳科学者である青砥瑞人氏は著書の中で、脳のしくみとして次のことを挙げておられます。

- ・人は本来ネガティブ思考が作動しやすい。
- ・脳の回路は使わなければ衰え、使う回路ほど強化されていく。

人の思考がネガティブ思考に陥りやすいのは、脳が外部のエラー検知機能を備えていること、人間の記憶はネガティブな記憶を思い出しやすい傾向にあることの2つの理由があるといえます。人のミスや間違いに気づきやすいとか、5つのうち4つ成功していても1つの失敗の方が思い出しやすいというのは私達でも思い当たるのではないのでしょうか。また、日頃からよく考えていることについては思考が働きやすく、ひらめきが生まれやすくなりますが、考えていないことについては考えがまとまらなかったり、よい知恵が生まれにくかったりすることも納得がいきます。

他者のよさを見つめようとするを通して、人に対する見方・考え方が肯定的になったり、温かな目で見守れたりするようになります。失敗した経験も成功体験で上書きされやすくなります。また、こうした見方や考え方を習慣づけることでよさ見つけの回路が働きやすくなります。広見小では子ども達が他者を大切に、笑顔で学校生活を送れるようにこれからも「よさ見つけ活動」に積極的に取り組んでいきます。

2022年も残すところあとわずかとなりました。コロナ禍とはいえ、運動会、修学旅行、宿泊研修、校外学習など実施することができ、子ども達に仲間とともに活動する楽しさを味わわせることもできました。2023年はできることがさらに増えるとともに、子ども達が温かい言葉をかけあい、柔らかな表情があふれる1年となることを願って取り組んでいきます。これまでの皆様のご支援に感謝するとともに、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。良い新年をお迎えください。

